

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'99

9

月号【1日発行】

かわさき市民アカデミー学園祭 9月11日から



いまを話す

「しんゆり映画祭」の仕掛人
日本映画学校専務理事の武重 邦夫さん
「何がウケるか」市民が知恵
祭りと学校 面白くなくちゃ

■ほんねインタビュー いまを話す 4

「しんゆり映画祭」の仕掛人

「日本映画学校」専務理事、武重 邦夫さん

祭りと学校 面白くなくちゃ

「何がウケるか」市民が知恵

■はりきってます グループ紹介 10

体と言葉の訓練で健康

はんの木の会(麻生区)

なごやかに合気道を楽しむ

幸優氣会(幸区)

●学習・文化情報/会員募集/ミニニュース/編集後記 12

TOEIC・TOEFL対策セミナー受講者募集

退職準備講座 ライフアップセミナー受講者募集

□表紙絵……聖徳太子堂(宮前区の影向寺境内)

村楨 広義さん

(小誌は再生紙を使用しています)

かわさき市民
アカデミー

運営協の「公募委員」募集

継続的で専門的な生涯学習の場「かわさき市民アカデミー」の運営について、市民の方々のご意見を反映させることを目的に、運営協議会の「公募委員」を募集します。

<任期>平成11・12年度(平成11年11月～13年3月。同協議会へ期間中3、4回出席していただきます)。

<応募方法>9月21日(火)までに①氏名、年齢、住所、電話番号②200字程度の応募理由を記し封書でお申し込み下さい。審査結果は10月中旬にご連絡します。

<申し込み先>〒211-0004 中原区今井南町514の1、市生涯学習プラザ内、かわさき市民アカデミー事務局 ☎(733)6626

9月16日(木)10時から前売り

バス・バリトン 佐藤征一郎

ゲーテの詩によるF. シューベルト歌曲をうたう

11月13日(土)午後3時開演 川崎能楽堂(川崎駅下車)

ピアノ 新美夕紀子 全自由席3,500円

<曲目> 野ばら、魔王、恋人のそばに、月によせて 他

■問い合わせ 市文化財団 ☎(222)8821 ●当事業団など後援



かわさき市民アカデミー学園祭

見る・聞く・話す 多彩な催し

月 日	時 間	企 画 (演 題)	講 師 ほ か
9月11日(土)	10:00	オープニングコンサート	フレッシュアンサンブルかわさき
	11:00	講演「母、住井すゑを語る」	ジャーナリスト 増田れい子さん
	13:00	朗読会「文の命をどう生かすか」	97ことばと映像コース会員
	14:00	川崎学シンポジウム～川崎を見つめて	加藤有次・市民ミュージアム館長他
	14:00	講演と演奏「日本音楽の楽しみ」	竹内道敬・放送大学客員教授他
12日(日)	10:00	井戸端会議「みんなで話そう私の20世紀」	育つ市民の会
	13:00	講習「とっさの手当てが命を救う」	青山実・日本赤十字社救急法指導員
	13:30	対話集会「新しい時代の市民自治を考える」	太田直・市総合企画局都市政策部
13日(月)	10:00	講演「身体文化論」	養老孟司・北里大学教授
	13:30	講演「まちづくり、はじめのいっぽ」	延藤安弘・千葉大学教授
	14:00	公開授業「詩を読む 文章を読む」	江藤文夫・成蹊大学名誉教授
14日(火)	10:00	講演「藤沢周平の文学と時代小説」	高橋敏夫・早稲田大学教授
	13:00	講演「生活者の視点から」	谷口稔・元朝日新聞記者他
16日(木)	13:30	オペラ鑑賞会「真夏の夜の夢」	かわさき市民フロンティア
18日(土)	9:30	フリーマーケット	かわさき市民フロンティア
11日～13日	10:00	クラフト作りと展示「みどりと遊ぼう」	99みどりとくらしコース会員
11日～15日	10:00	アンデパンダン展～絵画、版画、写真	98美術コース会員
	10:00	展示「みんなで守ろう地球環境」	かわさき市民フロンティア
	10:00	展示「溝の口のまちづくり」	川崎学Ⅲ
10月13日(水)	13:30	フォーラム「地球環境保全活動について」	かわさき市民フロンティア

- 会 場 おもに市生涯学習プラザ（武蔵小杉駅下車）。
ただし「日本音楽の楽しみ」は麻生市民館大会議室▼「フリーマーケット」は麻生市役所前
広場（新百合ヶ丘駅下車）▼「オペラ鑑賞会」は市国際交流センター（元住吉駅下車）。
- 参 加 費 全企画無料。「みどりと遊ぼう」のクラフト作りのみ材料費実費。
- 申し込み 講演とクラフト作りは事前に電話で予約（先着順）。他は当日会場においでください。

◆問い合わせは☎(733)6626のかわさき市民アカデミー事務局。

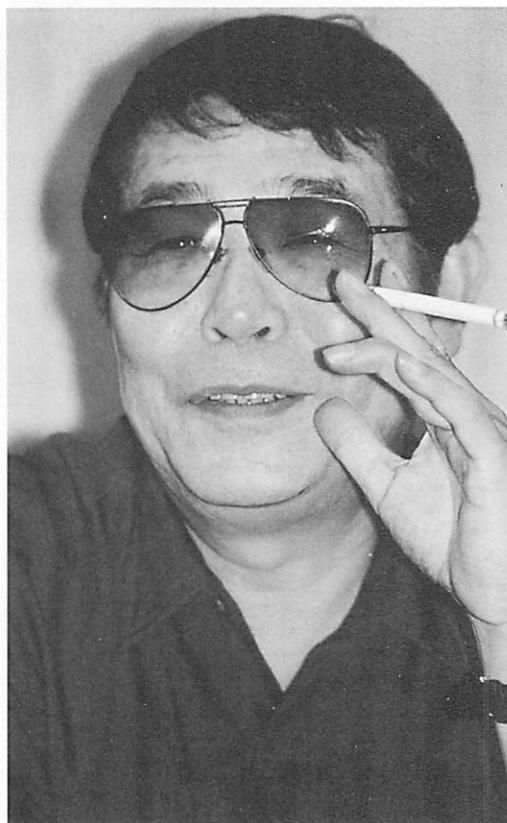
いまを話す

ゲスト

「しんゆり映画祭」の仕掛人
「日本映画学校」専務理事

武重 邦夫 さん

Vol.77



祭りと学校

「何がウケるか」市民が知恵

面白くなくちや

——ことしの「しんゆり映画祭」が来月（十月）七日から「ワーナー・マイカル・シネマズ新百合ヶ丘」などで開かれます。今回の映画祭の特徴や、みどころについてお話ししてください。

武重さん 今年から、映画祭の全プログラムを市民スタッフ（ボランティア）が企画立案し、プロデュースすることになってね。五年目にして、やっと二本足で歩けるようになった感じだね（楽しそうに）。今回も名画とヤング映画とバリアフリーの三部門開催ですが、

まちが活気づく。来月七日からの「しんゆり映画祭」で。この映画祭の企画から運営までを、老壮青の男女の市民ボランティアがする。「まちに活気」のキーワードは「市民がプロデューサー」にある。「カネは行政が、ノウハウは日本映画学校（理事長・今村昌平監督）が、知恵・アイデア・労力は市民が」との「新システムの仕掛人」である同映画学校専務理事、武重邦夫さんに、フリー編集者の野々川千恵子さんが聴く。「何に関心を向けるか、何を調査するか、何を創作したいのかのプロセスが大事。映画をどう撮るかということよりも」が今村監督の持論とか。みんなでワイワイやって盛り上げ、喜びと責任を分かち合う。これ、自治の理念なんだな。

今年「遙かなる隣人」をメインテーマに韓国特集をします。また、特別イベントとして、淀川長治さんをしのぶので映画特集。五周年を記念しての「映画音楽の夕べ」のライブも出来ればと思っっています。うれしいのは、昨年が続いて日本映画学校の卒業製作をお見せできることだね。校長賞（佐藤忠男賞）を取った二本で、在日韓国・朝鮮人の学生の作品です。ドキュメントとドラマですが、二一世紀における在日の若者たちの新しい生き方が見えてきます。新鮮で、チャイミングで、青春の息吹が感じられるすばらしい作品ですよ。

——「しんゆり映画祭」二年目の一九九六年にボランティアを募集したきっかけをお聞かせ下さい。

武重さん 九五年に、川崎市から要請を受け「しんゆり映画祭」を始め、一年目は日本映画学校のスタッフが手伝ってくれて、それはそれでうまくいったんだね。ところが、映画祭が終わっても充実感がない。祭り独特の体を突き抜けるような喜びがなく、嫌になっちゃって、考え込んでしまったよ。しばらくすると、大変なことに気づいたんだ。川崎市が市民映画祭

「無責任さあり」の素人集団 ボランティア モノづくりが連帯感齎てる

と位置づけているのに、スタッフに市民が一人も参加してないってね。うかつだったよ、まったく。

——私は、その一回目のボランティアで、仕事も年齢もいろいろな市民が集まりましたね。

武重さん 最初は、映画愛好家



「映画祭で共生を」。車いす講習会を開き受け入れOK（提供写真）

グループを探そうと思ったが、将来のことを考え、市民の力を集めて新しく体系を作ったほうがいいと。それで「市民ボランティアが映画祭に必要な知識は何か」を考え「映画づくりの基本的知識じゃないか」と思い、撮影などの体験講座を受けてもらったわけだね。

——みんな興味しんしんで、あれはよかったですね。

武重さん あとは面白くなくちゃいかんわな。遊びや創作の要素というか、喜びを味わわなくちゃね。

——毎年、ボランティアを募集し、市民でつくる映画祭も五年目。どんな感想をお持ちですか。

武重さん 市民運動とかボランティアという言葉が流行しだしたのは高度成長時代以降で、いつの間にか神聖化されたりしてね……。

——「市民運動は正しい」みたいな……。

武重さん そう。市民というのは、僕も含めそれぞれ違った考え

を持つていて、信用出来ないところや無責任さもあるよね。みな生身の人間だからね。そういう人間同士がどこでどう折り合って、協働・共同していけるのか？ いきつくところは結局モノづくりの共同作業から生まれる連帯感や信頼感だろうね。お互い髪振り乱して頑張っている。「自分たちの先にあるもの」がかすかに見えてくるんだね。そうした基盤ができて、初めて自由な創作への道が開けると思うんだね。映画祭づくりに集まる人たちは、知的好奇心がおう盛な、目的達成への情熱や行動力のある魅力的な人達だよ。そういった人材に恵まれ、今までうまくやってこられたと思うね。

——市民参加の催しは数多くありますが普通、制約がありますよね。映画祭は「何でもあり」(笑う)。「いいものをつくる」ためなら、「やってみよう」とおっしゃる武重さん。その気概に、みんなの気持ちも盛り上がったのだと……。

武重さん それは、僕にというより、映画づくりの中にあるんですよ。映画は、たくさんの方が知恵と力を出し合ってつくる総合芸術。だから、必ずだれかが責任を

武重 邦夫 さん

たけしげ・くにお＝1939年、名古屋市生まれ。64年、早稲田大学教育学部社会科学科卒。69年、戯曲「黒念仏殺人事件」で芸術祭奨励賞。82年「楢山節考」(今村昌平監督)のチーフ助監督。94年、記録映画「民と匠の伝説」を監督、文部大臣賞受賞。97年から「利休・幻の茶室」を撮影中。また、50本以上の新人監督作品の製作も。現在、日本映画学校専務理事、今村プロ役員、「しんゆり映画祭」実行委員長など。麻生区岡上で妻、長女と3人で暮らす。

取るという基本原則があるので。撮影には危険が付きまとう。学生の実習製作ですら死亡事故が起きる可能性があるからね。映画祭も同じで「最終的にはオレが責任を取る」と腹を固めないと、面白いことなどにも出来ないよ。

——その気持ちで五年間やってこられたのですか。

武重さん まあね。来年から、その責任も市民の人達に請け負ってもらおう。責任がないといい加減になるから(半ば冗談のように)。

——映画祭づくりの中で「信頼関係をどう築くか」を学びました。

教えた学生の就職先は…

先生の現場

出来が悪けりゃ
あんたの責任!

映画学校の学生（昨年、提供写真）

夜を徹して看板を製作するボランティアと



武重さんの場合、今村昌平監督との関係が基本にあるのでしょうか。

武重さん あるね。一つは人のあり方の問題だね。今村組の撮影は死ぬほどシンドかったけどね、監督を見てると「いかなる事が起きて、最終的にはあの人が責任を取る」という感じがひしひし

とスタッフに伝わってくるんだ。だから、スタッフは能力を超えた力を発揮する。すごい人間力だよ。もう一つは、僕らの学校の特長かな。すべての先生が現役のスタッフ。つまり監督やカメラマンでしょ。ところが、学生は卒業と同時に自分の撮影現場に来る……。

——結果責任が問われますよね。

武重さん そうなんだ。学生は学校を信頼してくる。それを裏切ることはできないし、学生に裏切られたと思われたくないから、こつちも必死でやるんだね(苦笑い)。

——映画学校の同じフロアに、監督やカメラマンがいて、学生といい雰囲気です。

先生と学生が気負うことなく学び合う映画学校設立のいきさつは？

武重さん 七四年の秋。僕が香港で仕事を終えて戻ってきたら、突然、今村さんが「映画学校をつくるぞ」と言うんだ。開校半年前のことで、驚く間もなかったな。当時の映画界はテレビに押され、製作現場の縮小を進め、数年前から助監督の募集も打ち切っている状態だった。助監督とかシナリオライターというクリエイティブ(創造的)な部分、育てなくてはいけない部分から切り捨てて、取り返しのつかない過ちを犯したわけだよ。そのころ、一般企業は人材育成に多大な投資をしていた。それが経済大国の大きなファクター(要素)になったんだね。

——人材が映画製作のカギなのに……。

武重さん 今村さんが映画学校をつくった背景には「いい人材を育てたい」との強い意思があったね。当時の今村組には最高のスタッフがそろっていて「優れた人材を絶やしてはならない」との使命感があったと思うね。

——斜陽になっている映画の学校をつくった意味は、そういうことだったのですか。最初は横浜に開校されたんですか。

武重さん 七五年四月、「横浜放送映画専門学院」(二年制)として開校したのです。試行錯誤の連続でね。学生に教えるのが学校ですが、映画の場合、マニュアルを与えても何にもならないんです。それぞれの学生が持っている意識とか、感性をどう引き出していくか。彼らの中で、モヤモヤしているものをどう手助けして、表現という形にたどり着かせるかが勝負です。結局は、教えるのでなく、彼らに触発しボクシングするしかないんです。講師と学生が真剣にグロブを交わして、初めて教育が成り立つ。そここのところで一緒に苦労するんだね。この学校は。

——カリキュラムがとてムニムニ



なんだが、非常にうまくいったね。打ち上げの時、高校出てきた女の子が興奮しながら「先生、こんな面白い学校、初めてだよ。毎日が楽しくてしょうがない」というのです。そして、大学へ行っている友達に、映画学校の話をすると、うらやましがられると話すのです。学校は面白がって来なくちゃね。

——学歴、年齢差は実際の授業にどう表れますか。

武重さん 短編創作を毎週書かせたけど、大卒より高卒のほうがセンスがあって面白いものを書いたね。でも、大卒や元会社員の青

年たちが、十八歳の新卒を同じ仲間として接していたのには心打られたね。若者たちの中では学歴や肩書の時代が終わろうとしているんじゃないかな。

——ここで武重さんの映画との出会い、今村監督との出会いについて、お聞かせいただけますか。

武重さん 僕の人生は遊び半分、仕事半分のような気がするよ。早稲田に入った途端、六〇年安保闘争に巻き込まれ国会突入でしょ。

川崎で「国際ヤング映画祭」

近い将来 市民と交流、市が賞金

寒村で起きた親近相姦の殺人事件で、一年前に迷宮入りした不思議な事件という。犯人は被害者の弟と分かっているが確証がない。何故そうなったかを調査してこいと。

——行かれたのですか。

武重さん ええ。民俗調査と称して雪に埋まる村に入ったが、怖いし死に物狂いだっただね。で、調査報告書を今村さんに渡したら「非常に面白い」とほめてくれてね。小沢昭一さんが「これを芝居

その後、挫折感を抱えたまま学内劇団に入ったが発声練習も出来ないから相手にされない。「実力のない分、知識でカバー」と、一年間で世界中の戯曲を読みあさったよ。でも、しょせんは付け焼き刃。いいかげんな青春だったな。今村さんとは、彼が名作「赤い殺意」を撮り終えたころお会いしてね。翌日、事務所に呼ばれ「お前、調査に行つてこんか」と三万円渡されたっけ。東北の十三戸しかない

にしたい」と……。うれしかったな。当時の今村組には黛敏郎、浦山桐郎、西村晃、殿山泰司、大カメラマンの姫田真佐久、といったすごい大人たちがいて「本当のインテリ集団」と思ったよ。あのときの強烈な印象、魅力的な大人たち、今でも忘れられないね。

——今村監督の魅力とは？

武重さん そうね。あの人のすごさは、自分が興味を持った事しか映画にしないことだね。仕事や

生活のためにつくった映画は一本もない。「映画をどう撮るか」は、あの人にとってどうでもいいことで「おれはこれを描きたい」だけで生きてきた。黒澤明監督亡き後、新藤兼人さんと今村さんは最後の「全身映画監督」だね。それと、今村さんの良さは若い人の意見や提案に耳を傾けることだね。意見を言わない若者をしかりますね。

——今後の夢をお聞かせください。

武重さん 一つは「かわさき国際ヤング映画祭」。世界中の映画人のタマゴを新百合ヶ丘に集めコンペティション（競技会）を開くんだ。若者たちは貧乏だから町の人たちにホームステイをお願いしてね。家族ぐるみで映画祭に参加してもらうんだよ。コンペには市民投票もあって、みなでバックアップしながら才能を発掘するのよ。グランプリの受賞者には五千万円くらいの製作費をあげて、川崎市全市民がプロデュースして新しい映画をつくらせる。若い才能にチャンスを与えるんだよ。出来上がった映画は川崎市民の共有財産として、今度は世界に向けて発信するのさ。顔のない日本人ではなく、

ほんねインタビュー

川崎市民の顔をアピールしたいね。

——二つ目はどんな計画ですか。

武重さん 僕の先輩がね、フランスのプロデューサーたちに「世界の映画制作者を集めて、映画講座をしないか」と持ちかけたから「日本映画学校でやろう」とって言うてくれた。うれしいよね。日本映画学校は、日本よりフランスやアメリカで評価されている不思議な学校だ。日本では、専門学校が大学より低く見られがちだけど、うちなんか、実践面では大学院レベルだと思うよ。だから、この学校をクリエイティブ（独創的）な場として市民に活用してもらい、いい作家を生み出す努力をしたいね。

——三つ目のプロジェクトは。

武重さん 映画製作はコストが高いので、若い才能が自由に映画をつくるチャンスが非常に少ない。だから、なんとしても、公的資金のバックアップ・システムをつくりたいね。今までは東京が中心の映画づくりをしてきたけれど、これからは地方の住民が企画を立て、映画学校が技術的バックアップをして、全国からいろいろな映画が生まれてくるシステムをつくりたいね。地方の自然や感性豊かな人

間性、あるいは伝統文化の滋養を中央にフィールドバックさせて日本を変えたいね。この「知的好奇心がギョッと詰まった静かな文化革命」、ぜひ、実現したいね。地方がロケ地にだけ使われなくて、

地方の人たちが映画で自己表現すれば、日本映画だけでなく、日本人の意識そのものが変わってくると思うんだよ。また、そうした作品が世界中で紹介されたら、世界の人々に、新しい日本人観を提示できると思うしね。

——武重さんのみずみずしい発想力の源のひとつが、好奇心なのですね。楽しいお話、ありがとうございます。



題字は高橋清・川崎市長
構成／富樫 恭子
文責／田中 園
カメラ／山本 綾子

いま、韓国映画がおもしろい！

第5回 **しんゆり映画祭**

テーマ：遙かなる隣人

10月7日(木)～11日(月)

ワーナー・マイカル・シネマズ新百合ヶ丘 他

前売り1,000円 当日1,200円

(小田急線新百合ヶ丘駅下車)

〈オープニング〉 淀川長治さんが愛した映画と思い出

韓国映画特集

「風の丘を越えて」「故郷の春」他

しんゆり名画座

「シャイン」「バクダッド・カフェ」他

ヤングシネマ

日本映画学校卒業製作の校長賞授賞作
「青～チョン～」 「あんにょんキムチ」

イヤホンガイド・字幕付き

「鉄道員 ぽっぽや」
「ライフ・イズ・ビューティフル」

- チケット取り扱い：チケットぴあ ☎03-5237-9999 (9月初旬から発売開始)
- 問い合わせ：同映画祭事務局 (日本映画学校内) ☎959-5042 主催／川崎市ほか

はりきってます グループ紹介

体と言葉の訓練で健康

はんの木の会(麻生区)

「はんの木の会」は永田清子代表(50)ら十人。毎月二回、水曜の午後、麻生市民館などで日ごろの心身のストレスを解消しようと、マッサージとボイストレーニングに励んでいる。二つの異なる活動の「合わせ技」の成果は上々のようだ。

この日は、和室で二人一組になって、全身マッサージから始めた。一人が、あお向けになり全身の力を抜くと、パートナーが、手から腕、脇、肩、胸……と、細かく揺すったり、ゆったりと持ち上げたりする。上半身のマッサージがすむと、足先から腰へと移る。

「息をゆっくり吸って。その調子です。はい、息をゆっくり全部吐きましよう」と、指導の瀬戸嶋充さん(演劇団「侏羅」)のゆったりとした優しい声が室内に流れる。硬くなった筋肉を柔軟にするためには、正しい呼吸の仕方が不可欠という。

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 生かす

休憩した後はボイストレーニング。会員は、楽で気持ちのよい、自然な発声を心掛ける。体全体の力を抜いて、全身が左右に揺れな

がら声を出す。

再び二人一組になり、今度は背中を合わせ、後ろで両手を組んだまま交互に体を持ち上げ、下の人が揺すり、上の人が声を出す運動をする。背骨を伸ばし腹筋を強める効果もあるらしい。

唱歌「おぼろ月夜」では、菜の花畑をイメージしながらゆっくりと歌う。それぞれの会員の顔が、

ほのかに上気し、心が開かれた優しい表情で合唱する。

「最初は、体の『力を抜く』ことがどういうことか、分かりませんでした。体の感覚は、その時その時によって違うので、同じ曲でもあきません」と永田代表。

同会は平成五年、麻生市民館の成人学校「ボイストレーニング」からだが語る。ことばに出会うの受講者有志によって発足した。宮沢賢治の童話「鹿踊りのはじまり」の中の「空にまっすぐ伸びる『はんの木』」の名に由来する。シャランソンを歌う原くに子さん(68)は「心身を解きほぐされる時間が持てるのはうれしい」と満ち足りた表情。

いろいろな健康法を試した磯田貞子さん(65)は「本当に声が自然に出せるようになりました」と明るい表情。

子供と一緒に参加の根来晶子さん(30)は「自分のハスキーな声がいやで入りましたが、発声練習を重ねるうち声が変わりました」。連絡は ☎ FAX (955) 6812の永田代表。

文／小誌・北川春江
カメラ／小誌・菅原純子

吸う・吐く・力抜き
心身を解きほぐす



相手の力を利用 気を入れ技磨く



毎週土曜か日曜の午後、石川記念武道館で「幸優氣会」の曾根秀行会長（40）の子供から大人まで男女二十人が、なごやかに合気道の練習を繰り広げている。練習は、柔軟体操をした後、二人一組になり、諸手取りの呼吸投げから始まる。受ける方と取る方がお互い半身に構える。両手を取られた受けが、足を軸に体を転換

させ相手を投げる。

「合気道は、呼吸に始まり呼吸に終わるともいわれます」と、袴姿の上野洋治さん（48）が丹田を

なごやかに合気道を楽しむ

幸優氣会（幸区）

鍛える必要を強調する。

練習は、投げ技の入り身投げとその変化技を磨き、二教、三教と呼ばれる固め技や武器技である短刀取り、四方投げなど、変化に富んだ多くの技を気を入れて繰り返し練習する。さらに交代で、ゆっくりと受け身の練習に入る。

練習の節々に「ありがとうございました」と相手に感謝することばが交わされるのが印象的である。指導する全国組織の「合気会」

師範、織畑和夫さんが「相手の力とぶつからないで、逆に相手の力を生かすんです。遠心力と求心力を利用して」「力を抜いて。そう、そうです。気を出しません」と、元気に会員を励ます。

合気道は、日本の古武術の流れをくむ格技のひとつで、技は千変万化、その数は無数といわれる。試合を行わず、けがの危険も少なく、腕力に頼る武道ではないため、老若男女すべての人がそれぞれの

力に合わせ無理なくできる。この会にも、親子四組、小学生から大人まで男女の区別なく参加している。交通事故によるまひのリハビリをかねて来ている人もいる。

同会は平成七年七月、昇段・昇級を目的に、同武道館などでけいこをしている同好の士が集まって発足した。

「二一世紀に向け、戦いのない平和な優しい気の満ちる時代になるようにとの願いをこめて命名しました」と世話役の加藤由美子さん（52）は発足のころを振り返る。

佐藤守さん（48）は「武道と健康法を兼ねての練習ですが、後で飲むお酒も楽しみです」と笑う。

星野孝子さん（46）は「息子や娘と一緒に頑張っていますが、疲れにくくなり、体力もつきました」と、さわやかな表情。

一年前から、親子で参加している千葉俊晃さん（48）は「子供のほうが上達が早いようです。和気あいあいとやっていますが、礼儀は厳しいですよ」と楽しそう。

連絡は ☎ FAX (522) 8995の佐藤さん。

文 / 小誌・北川春江
カメラ / 小誌・菅原純子

学習・文化情報

参加したい催しがある

催し



市外局番のないものは044

学習・文化情報

「①わくわく実験ショー」
 ②ガリレオ工房科学実験教室◆東芝科学館」①は9月11日(土)。テーマは「洗濯機について」。汚れはなぜ落ちるのかを実験中心に解説②は9月25日(出)。「燃える、消えるの科学」と題し、水、消火器を使わない消火方法を。講師は高橋和光・江戸川区立小松川第二中教諭。先着順。いずれも10時と13時半。無料。申し込みは☎(549)22000の同館。川崎駅からバス。

「神奈川こども人形劇脚本コンクール募集」県内に伝承されている昔話・伝説を素材にした人形劇の脚本を。県内在住・在勤者の個人がグループ。10月31日(日)(消印有効)までに応募する。問い合わせ☎045(241)3131の県立青少年センター児童文化課内、同コンクール事務局。

「中秋の名月とお月見団子◆川崎授産学園」9月25日(出)19時から。無料。雨天時は映画。小学生以下要保護者。☎(954)5011。新百合ヶ丘駅からバス。

「シネマクラブ・ライオン・キング2◆川崎マリエン」9月12日(日)14時。日本語吹き替え。無料。当日先着300人。☎(287)6009の川崎港振興協会。

「①わら細工あしなかな人形浄瑠璃公演◆日本民家園」①は9月25日(出)10時。小学～高校生。無料。先着②は9月26日(日)13時。小田原・下中座(国指定重要無形民俗文化財)が「伽羅先代萩 政岡忠義の段」を公演。300円(入園料別)。抽選。申し込みは①9月1日(火)から☎(922)2181の同園②13日(月)までに往復はがきに観覧者名(2人まで可)、住所、☎を記し〒214-0032、枳形7-1の1、同園・同公演係。

「①初秋の座間谷戸山公園で自然を楽しむ◆同公園」9月15日(祝)10時、小田急線座間駅改札に集合。斎藤博・市民アカデミー講師。参加費300円。30人。弁当など持参。雨天時は22日に延期。申し込みは☎(954)1862の酒井さん。多摩区の緑と水を考える会主催。

「①星を見る夕べ②天体写真撮影会◆市青少年科学館」①は9月11日(出)18時。M57、アンタレスを観察。曇り、雨天時はプラネタリウム②は10月17日(日)19時。月を撮影。小5以上。先着。雨天中止。いずれも無料。小学生以下は要保護者。申し込みは①当日直接②9月22日(火)から☎(922)4731の同館。

「観察会◆生田緑地」9月5～26日の毎週日曜9時50分、市青少年科学館集合。クモ、キノコなどの自然解説。無料。申し込み不要。☎(922)4731の同館。

「敬老のつどい◆宮前老人福祉センター」9月14日(火)13時、懐かしのジャズマン・柳沢慎一の演奏。60歳以上の方とその家族。無料。当日直接。☎(877)9030の同館。

「①化石ペンダントをつくろう②手づくり乾電池教室◆市青少年科学館」①は9月19日(日)。先着②は10月3日(日)。小学4～6年。先着。いずれも13時から。無料。申し込みは①9月2日(火)②7日(火)9時から☎(922)4731の同館。

「①こそだて・はっとばあく②同・ミニ・ばあく③女性学級企画委員募集◆プラザ大師」①は9月8日(火)10月6日(火)9時半。親子遊びや体操。幼児と母親。初回250円、後は50円②は9月22日(火)10月20日(火)10時。手遊びや絵本の紹介。乳幼児と母親。無料③は9月17日～10月15日の毎週金曜10時、全5回。女性の視点からのまちづくり。市内在住在勤者。無料。先着。申し込み③のみ9月3日(金)10時から☎(266)3550の同館。

「にんぎょうげき◆プラザ橋」9月25日(出)11時から。「赤ずきんちゃん」「ママはあわてんぼう」をオフィスやまいものが上演。3歳～小学生とその保護者。無料。11日(出)10時から同館で整理券配布。☎(788)531。

「北川智繪独演会」言の葉がたり◆築地本願寺内ブディストホール」10月15日(金)19時マ16日(出)17時半開演。「泥棒と若殿」「おこんじょうるり」。全自由席3千500円。問い合わせは☎(711)8032の電話写。

「平野正人語りの会」遠野のむかしばなし◆靴ホール」9月25日(出)18時半開演。全席自由。大人千500円。

ステージ



学習・文化情報

きいてみたい音楽がある

溝ノ口駅下車。問い合わせは ☎(833) 4258の平野正人語りの会。

①プラザ敬老記念公演
②プラザすずき寄席◆川崎市民プラザ ①は9月10日(金)14時開演。出演は大津美子。曲は「ここに幸あり」他。無料②は9月25日(土)18時開演。三遊亭楽太郎Ⅱ写真Ⅱ他。前売り千800円。☎(888) 3131。



①糀金曜寄席②コージ・コンサート◆糀ホール ①は9月10日(金)19時開演。会場は同ギヤラリー。出演は林家錦平。前売り千300円②は26日(日)14時開演。出演は、河村里子(フルート) 斎藤久美子(ピアノ) 森文彦(バリトン) 他。曲目は、ガッシュイーン「ラブソディンブルー」。無料。問い合わせ ☎(812) 6090。溝ノ口駅下車。

「ランチタイムコンサート◆川崎市役所第3庁舎口ビル」9月22日(水)12時15分開演。桑山哲也(アコーディオン) 千葉広之(ピアノ) 広瀬健二(ギター)。ピアノラ「リバー・タンゴ」他。無料。問い合わせ ☎(222) 8821の市文化財団。

①ブルース・アーベル バリトンリサイタル②エリソン・ヴェルサラーゼピアノリサイタル③ヤブロンスカヤピアノレクチャーコンサート◆洗足学園前田ホール 他 ①は9月29日(水)18時半開演。シューベルト、ブラームスの作品。無料②は10月4日(月)18時半開演。シヨパンの作品。無料③は10月7日(木)18時開演。無料③は前田講堂。問い合わせ ☎(856) 2981の同大学演奏部。溝ノ口駅下車。

「コンサート」夢をもういちど◆宮前老人福祉センター 10月6日(水)14時開演。笹子まさえ(メゾソプラノ) 宮崎滋(ピアノ)。無料。先着80人。申し込みは9月15日(祝)から ☎(877) 9030の同館。

「国士館大学吹奏楽部」サマーコンサートイン川崎Ⅱ写真◆多摩市民館 9月8日(水)18時半開演。ドヴォルザーク「新世界より」他。無料。詳細は ☎03(3419) 7428の同部。



「武蔵野太鼓保存会チャリティー公演◆エポックなからはら」10月3日(日)15時開演。全席自由。前売り大人2千円。問い合わせ ☎045(713) 9707の同保存会・林さん。
「ミュージアムライブ」川崎音楽賞受賞者によるクラシックピアノのタペ◆市民ミュージアム 9月25日(土)18時半開演。モーツァルト「きらきら星」の主題による変奏曲」他。700円。先着300人。申し込みは9月3日(金)9時半から ☎(754) 4500の同館。

講座・講演

①球根草花の育て方②秋の庭木の剪定◆緑化センター ①は10月20日(水)。千円②は10月27日(水)。無料。時間は13時半。抽選。申し込み①10月6日(水)②13日(水)までに往復はがきに講習会名、住所、氏名、☎を記し〒214-0021、宿河原6の14の1、同センター。☎(911) 2177。

「情報化、少子化における子どもの成長と発達◆大妻女子大学多摩校」9月25日(日)から毎土曜10時、全5回。先着。3千円。申し込みは13日(月)までに往復はがきに住所、氏名、☎、性別、年齢、職業を記し〒206-1854多摩市唐木田2の7の1同大事務部公開講座係。☎042(372) 9988。唐木田駅下車。
「上級写真講座◆市民ミュージアム」10月9日から

申し込みは、9月21日(水)~24日(金)10~16時に ☎(952) 5000の当事業団に電話

TOEIC(初級)・TOEFL(初級) 対策セミナー

受講者募集

<期間>TOEIC、TOEFLとも10月30日~来年3月4日の毎週土曜、各全15回
<時間>TOEICは10時30分~12時30分、TOEFLは13時30分~15時30分
<会場>市生涯学習振興事業団(新百合ヶ丘駅下車、徒歩2分)
<費用>受講料は各2万円。教材費はTOEIC8千円、TOEFL5千円
<定員>各25人(定員を超えた場合は抽選)
■申し込みは、9月21日(水)~24日(金)10~16時に ☎(952) 5000の当事業団に電話

学習・文化情報

探していた講座がある

毎土曜13時、全8回。暗室技術習得の人。1万2千円。要材料費。抽選。9月18日(土)までに往復はがきに住所、氏名、☎、返信部分にあて名を記し〒211-0005 2等々力1の2同館同講座係。☎(754)4500。
 「生活の質を高める生活習慣と運動」◆市看護短期大学 9月18日(土)14時。ジャーナリストのチャック・ウィルソンさんの講演。無料。先着。申し込みは9月10日(金)まで☎(587)3502の同短大公開講座係。
 「成人学校」はじめての健康体操②同文化刺繍③乳幼児学級◆岡上分館 ①は9月7日から毎火曜10時②は9月10日から毎金曜10時③は9月17日から毎金曜10時。3歳前後の子供とその親。回数は10回。受講料など千〜5千円。申し込みは①②1日(水)10時に来館③は3日(金)10時から☎(908)026902。
 「朗読入門」②手話入門◆市中部身体障害者福祉会館 ①は10月2日から毎土曜10時。テキスト代3百円

②は10月5日から毎火曜18時半。回数は5、6回。抽選。申し込みは①9月22日(水)②25日(土)までに往復はがきに講習会名、住所、氏名、年齢、☎を記し〒211-0068小杉御殿町2の114の1、同館。☎(733)9675。
 「①熟成学級②親子スクール③成人学校」筆ペン◆プラザ田島 ①は9月30日から毎木曜14時。60歳前後。経験を若い世代へ、話し合いや本作り②22日から毎水曜10時。3歳前後の子とその親③24日から毎金曜14時。各10回。①②教材費③4千円と教材費。申し込みは①9月9日(水)②10日(金)10時から☎(333)91200の同館。③は8日(水)10時に来館。
 「環境マネジメント入門」◆県立川崎図書館 10月6日から毎水曜13時半、全4回。環境とリサイクルの動向。5千円。抽選。申し込みは9月1日(水)〜20日(月)、往復はがきに住所、氏名(ふりがな)、年齢、職業、☎を記し〒210-0011富

士見2の1の4同館同係。☎(233)4537。
 「みやまえ青年セミナー」◆ネイチャーレクリエーションを楽しむ◆宮前市民館 他 9月11日から第2・4土曜13時半、全7回。保険料のみ実費。申し込みは9月11日(土)までに☎(883)3911の同館。
 「秋の創作教室①絵画②版画③クリスマスケーキづくり④クレイアート⑤草木染め⑥はた織り」◆市青少年創作センター ①は10月10〜24日の祝休日曜②11月27日(土)、28日からの毎日曜③は12月23日(祝)④10月8日から毎金曜⑤11月4日から毎木曜⑥24日(水)⑦は10月8日から毎金曜。各3、4回。時間は各9時半。①②③小中生、他は成人。受講料④⑤⑥千〜2千円、他は無料。要材料費。抽選。9月12日(日)までに往復はがきに教室名、住所、氏名、☎、性別、学校名・学年を記し、〒214-00034三田2の3303の1、同館。☎(911)1510。
 「パソコン研修」◆市産業

振興会館」9月に開く初心者、経験者、中高年向け20講座の受講者募集。受講料6千〜4万円。詳細は☎(548)4121の市産業振興財団情報開発課。
 「①気になる水を調べよう②インターネット情報とのつきあい方」◆市消費者行政センター商品テスト室 他 ①は9月24日(金)と29日(水)10時、同室。先着②は10月1日(金)10時、中小企業・婦人会館。先着。無料。申し込み①9月1日(水)②17日(金)9時から☎(200)2262の同センター。
 「労働講座」◆今日の労働事情と労働法◆県川崎労働センター 9月28日(水)〜10月28日(水)のうちの10日間18時半。日本経済の動向と労働市場など。受講料3千円。☎(803)3141。
 「10月からの講座」◆市中小企業・婦人会館」文学、手芸、スポーツなどの89講座の受講生を9月16日(水)から募集。受講料1九月2100円から。入会金3150円。保育も。詳細は☎(422)2525の同館。

退職準備講座 ライフアップセミナー 受講者募集

「第2の人生」のスタートを快く迎えるために、退職後の生活設計を立ててみませんか
 ●期 間——11月9日、16日の火曜13時〜17時、全2回
 ●会 場——市生涯学習プラザ(武蔵小杉駅下車徒歩11分)
 ●受講料/定員——2,000円/先着70人
 申し込みは9月7日(水)〜10月20日(水)までに☎(733)6626の当事業団学習事業室

学習・文化情報

たのしい講座がある

「俳句入門講座◆登戸ドレスメーカー学院」9月11日(土)13時。千円。先着。申し込みは午前中に☎(911)2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。

「健康ビデオ講座◆宮前老人福祉センター」9月27日(月)13時半。高血圧について加藤剛志医師。60歳以上。先着。無料。申し込みは9月15日(祝)から☎(877)9030の同センター。

「地域消費者問題専門講座◆県川崎消費生活センター」10月5と12日火曜10時。食品表示をめぐる動き。無料。先着80人。申し込みは9月1日(水)から☎(833)12331内線3332、高津合同庁舎内同センター。

「成人学校①簡単おもてなし料理②秋花のインテリア③意外おもしろ科学④秋の自然体感講座⑤近現代のギリシア◆麻生市民館」①は9月22日から毎水曜10時②17日から毎金曜14時③10月8日から毎金曜14時④9月11日から毎土曜他10時⑤は9月29日から毎水曜18時半。回数は5

10。受講料2千〜4千円。①②④教材費。抽選。申し込みは①②③が9月7日(火)10時④⑤が同18時半に来館。☎(951)1300。

「①平和人権尊重学級②女性セミナー③子育てセミナー④家庭教育学級◆麻生市民館」①は9月29日から毎水曜10時②は10月1日から毎金曜10時③は9月28日から毎火曜10時。3歳前後の子の親20人④は10月1日から毎金曜10時。学齢期の子の親30人。回数は10〜11回。無料。申し込みは①が9月16日(木)②が17日(金)④が3日(金)10時から電話③は9月10日(金)までにはがきに住所、氏名、☎、子供の氏名、年齢(月齢も)、性別を記して215-0004万福寺1の5の2、同館。☎(951)1300。

「成人学校①版画で年賀状②料理と体操◆プラザ大師」①は9月29日から毎水曜14時。教材費込み3千円②24日から毎金曜18時半。教材費込み7千5百円。回数は5〜10。申し込み①10日(金)10時②同18時半に来

館。☎(266)3550。

「初心者写真教室◆サンライフ川崎」10月22日から毎金曜9時半、全5回。受講料3150円。先着。申し込み☎(344)1777の同所。

「成人学校①自分で決めるお葬式②沖繩から“今”を問う③愛犬家は学ぶ④千潟の世界◆多摩市民館」①は10月5日から毎火曜14時②6日から毎水曜14時③7日から毎木曜10時④9月21〜10月19日火曜18時半と日曜の9時半と13時。いずれも全5回。受講料2千円。抽選。申し込みは①②③9月10日(金)10時④同18時半に来館。☎(935)3333。

「①ニューカップルセミナー②女性学級〜男と女のすれ違い③家庭教育学級④高齢者(すげ)教室〜だれでも吹けるハーモニカ◆多摩市民館ほか」①は10月2日から毎土曜10時。区内在住で12月〜来年5月出産予定の夫婦②同14時③10月1日から毎金曜10時。学齢期の子の親④は同10時、

菅会館で。60歳以上。回数は5〜10。要教材費。申し込みは①18日(土)10時②同14時③④17日(金)10時から☎(935)3333。

「公開講座〜緑の機能と人間生活◆明大生田校」9月18日から毎土曜13時、全4回。無料。抽選。申し込みは9月1日(水)〜14日(火)、往復はがきに住所、氏名、☎を記して214-857

ギャラリー



「スナック喫茶琴」9月25日(土)まで草野宇野吉「水彩画展」▽同日から斉藤好子「水墨画展」。☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「市民ミュージアム」9月19日(日)まで「ホイッスラーからウオーホールまで」版画に見るアメリカ美術の



1東三田1の1同大学科学技術研究所公開講座係。☎(934)7613。

「成人学校①印象派の魅力②押し花入門◆プラザ橋」①は9月22日から毎水曜9時半、全10回。4千円②は9月24日から毎金曜14時、全5回。8千円。各30人(抽選)。申し込みは①②とも10日(金)10時来館。☎(788)1531。

百年」▽10月17日(日)まで「アメリカ版画名品展」。ルイス・ジョン・リード「孔雀女」Ⅱ写真Ⅱ他▽10月11日(休)まで、現代写真展Ⅲ。空間、建築がテーマのグループ展。企画展は一般9百円。☎(754)4500。

「ギャラリー幸」9月1日(水)〜10日(金)、星野庄三個展。女性が題材の油彩▽17日(金)〜22日(水)、女性美を描く「嬰展」。☎(555)8181。川崎駅下車。

「アートホール新町」9月26日(日)まで、リバーカールント会員の川崎大師、柴又帝釈天の写真展▽27日(月)〜10月28日(休)、新町小のボ

学習・文化情報

魅力的なグループがある

スター展。☎(344) 6444。川崎駅からバス。「会館とどろぎ」9月12日(日)まで、遠藤英夫「花と旅」写真展▽13日(月)▽24日(金)、海外派遣教師の写真展▽25日(土)▽10月2日(日)、市教職員、OBの写真展。☎(733) 33333。

スポーツ

◆太極拳入門無料講習会
市立宮前小体育館 9月5日から毎日曜14時、全10回。問い合わせ☎(333) 7472の日中武術交流協会川崎支部・大谷さん。
①親子スポーツ教室②たのしいウオーキング◆幸スポーツセンター ①は9月30日から毎木曜、全10回。A班14時、B班15時15分。3、4歳児と保護者の各20組40人。3千円②は22日から毎水曜13時半、全10回。15歳以上。30人。4千円。申し込みは①は16日(木)14時②は8日(水)13時半に来館。☎(555) 3011。
「エアロビクス教室」◆市生涯学習プラザ 10月5日

からの毎火曜10時、全8回。先着25人。受講料5千円。申し込みは9月16日(木)28日(火)の9時17時、☎(733) 5572の同館スポーツ事業室。
①テニス教室②ゴルフ教室▽月・金曜クラス◆等々カテナスコート他 ①は10月1日からの毎金曜、全10回。初級は9時半、中級は11時半②は9月20日(休日を除く)からの毎月曜

会員募集

●混声合唱団「樹林」
《佐々木喜之代表》プロのオーケストラと共演しています。来秋、オルフの歌劇「カルミナ・ブラーナ」を公演します。練習は毎週土曜18時45分から、宮前市民館ほかで。入会金千円、月会費4千円。連絡は☎・FAX(866) 5019の砂田。

●麻生合唱団《上野浩代表》百人のメンバーの混声合唱団です。ベートーベンの「ミサ曲八長調」「合唱

▽9月24日からの毎金曜いずれも10時、全10回。会場は丸子橋ゴルフ練習場。定員は各15〜18人(抽選)。費用は①1万円②2万1千円。申し込みは①9月17日(金)②9月10日(金)必着で往復はがきに教室名、住所、氏名、年齢、☎、クラス名を記し〒211-0064 中原区今井南町5-1-4の1、同プラザスポーツ事業室。☎(733) 5572。

幻想曲」などを毎週土曜18時半から、青葉幼稚園(新百合ヶ丘駅下車)で練習しています。入会金千円、月会費一般3千円、学生2千円。連絡は☎・FAX(986) 9144の鈴木。



世界の麻矢子へ
ぜひ、贈り物を

世界的チェンバロ奏者・曾根麻矢子さん(多摩区)が、このほど、東京中央区の王子ホールで演奏会を開いた。

曲は、バロック時代の変奏曲の最高傑作、バッハ「ゴルトベルク変奏曲」。主題のゆったりとしたアリアが、チェンバロの深みのある音色と渾然(こんぜん)一体となる。アリアの旋律が変形して、躍動的に伸びのある音色や乾いた音色が、きらびやかにホール全体に響き多彩な表情を醸し出す。マヤコの音に込めたバッハへの情念に観客は息をのむ。静寂に包まれたホールは、演奏者が鍵盤から手を下ろすと拍手の渦に変わった。

曾根さんは、この演奏会のためのメッセージで「ワインも入れるグラスによって香りや味の印象が変わるように、チェンバロを聞く場所によってもかなりその印象は違ってくる。楽器に適した「入れ物」で聴かないと、その「音」の良さは本当にはわからない。」
川崎がふるさとと世界のマヤコ。「音」の響く「グラス」をぜひ……(Y)。
お断り タイトルの一部などを省略しています。

編集後記

削る仕事は天職？
学習・文化

情報欄が、うれしい悲鳴▼原稿が公共施設だけでなく、市民団体や大学、民間のギヤラリー、ホールなどからたくさんいただく▼スタッフがコンパクトにリライトするが、1割以上あふれるのはザラ▼その原稿を一つもボツらないで載せようと悪戦苦闘の「削る仕事」▼だが「PRしていただくのはステイジ・アップさんだけ」という読者の顔を思い浮かべると、「削る仕事」が「自己満足」ではなく「貴い」ように思える▼政界は、いつの間にか「自自公」▼悪口を言い合っていたのに、政治家の度量はたいしたものの▼「小淵総理は人柄がいい」と評判▼国旗・国歌法やガイドライン法で野党第一党の民主党内部の亀裂を狙う「能ある鷹は鷹」である▼自民と連立を組んだ社会党はいま何処▼「昔軍隊、いま自自公」は困る(田)。

●発行 (財)川崎市生涯学習振興事業団 〒215-0004 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
電話 044(952) 5000代 FAX 044(952) 1350 編集人・田中 園